

カトリック河原町教会だより

2016年4月

けんりゅう
大塚乾隆神学生 助祭叙階 おめでとうございます 2016.3.5



写真提供: 京都教区広報委員会

3月5日、大塚乾隆神学生の助祭叙階式が河原町教会聖堂で行われました。大塚喜直司教は叙階の儀の中で、「助祭(=ディアコノス)は歴史的に司祭を助ける務めを果たす者であり、その最高の模範はキリストです。イエスの命令は仕事ではなく、人を愛し仕えることであり、奉仕には、徹底して自分を捨てて無とする、神の前における謙虚さが必要です。謙虚さは、神に愛されている確信から生まれるもので人間の力によるものではありません。神の愛に根ざし、すべてを投げうって、愛と喜びをもって人々に奉仕してください」と語られました。(編集委員)



叙階の恵みを受けて

京都教区 大塚 乾隆 助祭

いつくしみ深い神様の導きと皆様のお祈り、ご支援に支えられて、3月5日に助祭叙階の恵みに与りました。助祭叙階のためにお祈りいただき、心より御礼申し上げます。

叙階式の福音朗読は「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ」(ヨハネ15・16)の箇所を選びました。神学院に入るかどうか迷っていたときに、あるミサの中で読まれたのを聞いて、「自分で決めるのではなくて、神様にお任せしよう。もし神様が呼ばれたのなら大丈夫だろうし、そうでなければその時考えよう」と考えを変えました。しかしその頃は、「いつも共にいてくださる」と漠然としたイメージはあったものの、神様・イエス様がどんな方かをよく知りませんでした。神学院生活を始めて、講義の中で神様・イエス様のことを学び、また日々の念祷や特に年に一度の霊操を通して、今は神様が愛といつくしみそのものであり、イエス様が私たちの友であると少しずつ気づきました。これは、聖書を通して語りかけられる神様の言葉に耳を傾

け、沈黙の祈りの中で神様とイエス様と対話することの積み重ねによっていただいた恵みであり、このことに気づく恵みをいただけたことを感謝しています。霊操を指導してくださっている神父様が「霊的生活は恵みです」と言われたことが印象に残っています。

神学院に入ったときは、司祭の大きな役割はミサをすることだと思っていました。もちろんミサを捧げることは大切なのですが、この5年を通して司祭の役割はそれだけではなく、洗礼や聖体・結婚式や叙階式・病床訪問や葬儀といった、人生の大きな場面で人と関わり、神様の愛といつくしみを伝えていけることがどれほど素晴らしいことかを感じることができました。

4月から東京キャンパスで最後の1年を過ごしますが、その中で友であるイエス様との交わりを深めていくことができるよう、お祈りいただければ幸いです。私も皆様のためにお祈りします。

